

学校教育目標	挑戦 創造 感動 One for All All for One
目指す学校像	○学びのある学校 ○夢をはぐくみ、笑顔あふれる学校 ○たくましく生き抜いていく力を身に着けられる学校
重点目標	1 自ら進んで考え、表現し、学びを活用できる生徒の育成(真の学力の向上) 2 生徒一人ひとりの居場所があり、笑顔輝く学校づくり 3 地域との豊かな関わり合いを大切にしたい信頼される学校づくり 4 安心・安全な潤いのある教育環境整備 5 一人一人の良さが発揮できる活力のある教職員の育成

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							実施日令和8年2月25日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【学びの質の向上に関する取組】 (現状) ○学習状況調査では、全国、市平均と比べ概ね良好な結果であった。 ○タブレットを活用し、課題解決のための調べ学習や調べたことの整理やまとめ、プレゼンテーションを行うことに意欲的に取り組んでいる。 (課題) ○全国学力・学習状況の調査の結果分析から、「数学的な見方や考え方」や「データの活用」の結果に二極化が見られた。 ○家庭学習の習慣や先を見通した計画的な学習を身に付け、個別最適な学びの充実を図る。	・ICTを活用し、生徒が学ぶ楽しさを感じる授業実践	1 スクールダッシュボードの授業の振り返り活用し、授業改善を図る。 2 学力向上カウンセリングを実施し、課題分析を行い、授業改善を図る。	1 学校評価生徒・保護者アンケートにおいて、「学力」に関する項目で、肯定的な回答を90%以上にする。(R6生96% 保81%)	1 学校評価生徒・保護者アンケートにおいて、「学力」に関する項目で、肯定的な回答が、生徒は93%、保護者は84%であった。 2 学力向上カウンセリング研修を実施することはできなかったが、SSSPを校内で推進し、市で研究発表会を行った。また、スクールダッシュボードの授業アンケートを活用し、授業改善へのつなげることができた。	B	○スクールダッシュボードの授業アンケートや「学びの指標」アンケートの結果をもとに授業改善を行い、質の高い授業を実施する。 ○学力向上カウンセリングを実施し、課題分析を行う。	・授業の学び方が変わって生徒一人ひとりがついてこれているかが気になる。三者面談などで保護者や本人にも確認をし、支援体制を作ることも必要である。 ・現在の端末は、使用年度が重なり故障しているものが多い。iPadになる事で、家庭での使用方法など保護者にも学びの場があると良い。
		・「個別最適な学び」と「協同的な学び」の一体的な充実	1 個人の考えや班での話し合い等の結果についてタブレットを活用し、全体で共有を図る。 2 単元テストを効果的に活用し、学習の習慣化を図る。 3 学習アプリ(スタサブ、ラインズeライブラリ)を積極的に活用し、基礎基本の定着を図る。	1 学校評価生徒・保護者アンケートにおいて、「授業」に関する項目で、肯定的な回答を90%以上維持する。(R6生95% 保81%) 2 学校評価生徒・保護者アンケートにおいて、「タブレットの活用」に関する項目で、肯定的な回答を80%以上にする。(R6生95% 保74%)	1 学校評価生徒・保護者アンケートにおいて、「授業」に関する項目で、肯定的な回答が、生徒は96%、保護者は90%であった。 2 学校評価生徒・保護者アンケートにおいて、「タブレットの活用」に関する項目で、肯定的な回答が、生徒は87%、保護者は72%であった。	B	○各教科等の授業を通して、ICTを効果的に活用しながら、生徒が、自ら課題をみつめて解決へ導くことができる授業実践を行う。 ○学力の定着をはかる手段の1つとして、学習アプリの授業や家庭での活用を高め、基礎基本の定着を図る。 ○学校評価アンケートでは、「タブレットの活用」について生徒と保護者の回答では、ギャップがある。学校の取組を便りやホームページで発信していく。	
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】(現状) ○学校評価生徒アンケートにおいて、「学校生活」に関する項目で、肯定的な回答が95%であった。 ○心に不安を抱えている生徒に対して、組織として個に応じた対応を行っている。 (課題) ○スクールダッシュボードの充実を図り、教育相談や生徒指導への活用を図る。 ○生徒一人ひとりの状況を把握し、組織的に対応していく支援・相談体制の構築していく。 ○生徒会本部役員を中心とした各専門委員会の活動の充実を図る。	・すべての生徒が生き生きとした表情で学校生活を送ることができ、教育支援体制の充実	1 教育相談部会や生徒指導部会において、生徒の情報共有を確実に実施する。 2 「心と生活のアンケート」「おはよう・あすなろメーター」の結果をもとに教育相談や生徒指導での活用を図る。 3 SoLaを一むの環境整備を行い、オンライン授業を行う等学びの保証をする。	1 1月の「心と生活のアンケート」で信頼自己の高い生徒の数を80%以上にする。(R676%) 2 学校評価生徒・保護者アンケートにおいて、「学校生活」に関する項目で肯定的な回答を90%以上維持する。(R6生95% 保93%)	1 1月の「心と生活のアンケート」で信頼自己の高い生徒の数が80%であった。 2 学校評価生徒・保護者アンケートにおいて、「学校生活」に関する項目で、肯定的な回答が、生徒は94%、保護者は92%であった。	B	○支援を必要としている生徒に対して外部機関などと連携を図り、支援の一層の充実を図る。 ○スクールダッシュボードのデータの蓄積と分析を行い、問題に対しての早期発見、迅速な対応につなげていく。 ○SoLaを一むを利用している生徒の学習を保障するためにもスクールアシスタントと連携し、個々の学びを充実させる。	・生徒が充実した学校生活が送れるような生徒会の活動を行ってほしい。 ・PTAとしても生徒の活動を横断幕などで協力していきたい。 ・特性のある生徒に対して柔軟な対応や選択肢があると良いと思う。
		・主体的に取り組む生徒の育成に向けた生徒会活動等の充実	1 生徒会本部役員が中心となり、校則の見直し等、学校生活の課題を自ら解決する場面を設定する。 2 学校行事等において、生徒が主体的に取り組む場面を設定する。	1 教職員アンケートにおいて、「生徒会の活動」に関する2項目で、ともに肯定的な回答を95%以上維持する。(R698%)	1 教職員アンケートにおいて、「生徒会の活動」に関する2項目で肯定的な回答の割合が98%であった。 2 教職員アンケートにおいて、「生徒たちが自発的・自治的に生徒会活動に参加できるよう運営されているか。」という項目で肯定的な回答の割合が98%であった。	B	○生徒の主体的な活動を今後も大切にしていく。生徒会本部の活動方針をもとに各委員会が様々な取り組みを行い、生徒会新聞、生徒会朝礼、給食の時間の放送などを利用して生徒会の活動内容を発信していく。	
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 (現状) ○小・中が一体となった学校運営協議会での熟議した「挨拶プロジェクト」や「地域美化活動」を実施し、地域・家庭・学校が協働で生徒の心の育成を図ることができた。 (課題) ○地域行事への参加に対する生徒の意識を高める。 ○学校行事等に地域や保護者の方にも公開する機会を増やしたり、学校ホームページをさらに充実させたりして、学校の教育活動について周知し、理解を進めていく。	・学校運営協議会において地域で子どもを育てるための具体策の発案と実践	1 小中合同運営協議会での熟議をさらに充実させ、地域に貢献できる生徒を育成する。 2 学校ホームページ内に学校運営協議会の情報を発信するページを作成し、活動内容を広く周知する。	1 学校評価保護者アンケートにおいて「学校行事、ボランティア活動・地域巡回等」に関する項目で、肯定的な回答を90%以上にする。(R6:94%) 2 学校運営協議会でのアンケートで、「コミュニティー・スクールの一員として目指す生徒の姿を共有でき、地域ぐるみで子どもを育てるための実践を行った。」の項目で、肯定的な回答を90%以上にする。(R6:94%)	1 学校評価保護者アンケートにおいて「学校行事、ボランティア活動・地域巡回等」に関する項目で、肯定的な回答が93%であった。 2 学校運営協議会での情報は、「コミスク通信」としてスクリーンで配信することができた。	B	○次年度も引き続き、PTAや地域と連携した取り組みを進めていく。また、今年度から取り組んだ文芸部による美園イオンでの夏祭り、卓球部による美園公民館での卓球教室は、今年度の反省を活かし、次年度も続けていく。	・文芸部やSSTC部、卓球部の地域での活動はとてもいい活動なので、今後も続けてほしい。学校外での活躍も生徒の充実感につながる。 ・夏祭りは、次年度は大々的に広報してほしい。 ・商業施設とのコラボはとても良い事ことだと思ふ。 ・小学校と比べ中学校は、保護者との関りが少ないように感じる。子どもの様子を把握するために、もう少し連携のとれる仕組みが大切だと思ふ。
		・学校の教育活動の積極的な公開と情報発信	1 学校ホームページや連絡アプリ、学校だより等で学校の教育活動を発信する。 2 学校行事等を地域の方に積極的に公開する。	1 学校評価保護者アンケートにおいて「学級や学校の様子をアプリ、ホームページ等で積極的に家庭に知らせているか。」の項目で、肯定的な回答を95%維持する。	1 学校評価保護者アンケートにおいて「学級や学校の様子をアプリ、ホームページ等で積極的に家庭に知らせているか。」の項目に対し、肯定的な回答が96%であった。	B	○学校の様子や生徒の活躍を知らせるツールとして、アプリを積極的に活用してきた。今年度はHPでも情報を積極的に発信してきた。引き続き取り組んでいく。	
4	【教育環境の整備に関する取組】 (現状) ○学校評価保護者アンケートにおいて「施設」に関する項目で、肯定的な回答が96%であった。 (課題) ○経年劣化による設備の不良が少しずつ見られるようになった。 ○生徒の自己有用感を高めるような展示方法を工夫する。	・安全・安心な教育環境の維持	1 危機管理マニュアルに基づいた実践的な研修を行う。 2 全職員による安全点検を確実に実施し、迅速な修繕箇所等への対応を行う。	1 学校評価保護者アンケートで「施設」に関する項目でA評価を昨年より2%向上する。 2 安全点検を毎月確実に実施し、施設の疲弊による事故をゼロとする。	1 学校評価保護者アンケートで「施設」に関する項目でA評価は50%で昨年より向上させることはできなかった。 2 安全点検を毎月確実に実施した。修繕箇所は、迅速に対応することができ、施設の疲弊による事故はゼロであった。	B	○毎日の清掃では行き届かない場所を学期末の大掃除で丁寧に清掃ができるよう、環境担当と連携して、掃除の行き届いた環境づくりを進める。 ○毎月、安全点検を行ったが、集約が遅くなった月があったので、今後は、集約までのスケジュールをしっかりと立てていく。	・子どもたちが達成感や自信を持てるような作品を展示することは素晴らしい事なので、今後も続けてほしい。
		・潤いのある教育環境の整備	・生徒昇降口付近の掲示を整備する。 ・生徒の作品を展示し、自己有用感を高める。 ・正門付近の花壇を整備する。	1 学年フロア等に生徒の作品や活動の画像などを掲示する。 2 委員会活動等の一環として花壇の整備を実施する。	1 学年フロアに生徒の作品や写真を掲示することができた。また、生徒昇降口の掲示板を利用して、生徒会新聞等を掲示し、活動を発信することができた。 2 特別支援学級の生徒が作業の一環として花壇の整備を行った。	B	○引き続き、生徒の作品や写真や生徒会新聞を掲示し、生徒の自己肯定感が高まる環境をつくる。 ○冬季、花壇整備がされていない期間があったので、年間通して計画的に花壇が整備されるようにしていく。	
5	【教職員のキャリア形成に関する取組】 (現状) ○人事評価面談等を利用して、研修奨励を行っている。 ○ICTの活用に関する研修を行ったことで教職員のスキルの向上が図られた。 (課題) ○「個別最適な学び」と「協同的な学び」を充実させるためのICTを効果的に活用することができるスキルの向上を図る。	・教職員のキャリアアップと資質能力の向上	1 面談や諸会議等を通じて、的確な受講奨励を行う。 2 「学びの指標」をもとに指導・助言を行い指導力の向上を図る。 3 スクールダッシュボードのデータを活用し、教員の授業改善を図る。	1 当初面談時に受講奨励を行い、達成状況面談において、研修状況について確認する。 2 「学びの指標」において第2回の平均値をあげる。 3 教職員アンケートにおいて「探究的な学びの授業の構築・展開」の項目で肯定的な回答を維持する。(R6:95%)	1 達成状況面談において、研修の状況を確認することができた。自己評価シートで修の項目がAの教諭が全体の29%であった。夏休みなどの長期休暇を利用し、自己研鑽に努めていた。 2 「学びの指標」において第2回の平均値はどの項目も第1回よりあがっていた特に、ICTの項目では、0.2ポイント上回った。 3 教職員アンケートにおいて「探究的な学びの授業の構築・展開」の項目で肯定的な回答が100%であった。スクールダッシュボードのデータの活用し、授業改善が行った。	A	○次年度も引き続き、当初面談で、研修奨励を行う。特に、若手の教職員には長期休業期間に行われる研修を進めていく。 ○ICTの研修やデータの利活用に関する研修の成果として、積極的に活用する授業が増えた。今後の課題としては、アナログとデジタルを融合しながら、探究的な学びの授業を構築していく。	・研修によるICTスキルアップはとても良いと思う。 ・先生方が働きやすい職場であることが、子どもたちの学びやすさにつながると思う。 ・様々な家庭環境の中で成長する子どもたちは、考え方が違うこともあり、先生方が対応に苦慮することもあると思う。そのことが保護者にも伝わり、先生方の時間が持てるようになると良いと思う。
		・教職員の「やりがい」「働きがい」のある職場づくり	1 ストレスチェックや在職時間調査の結果を活用し、面談を行い、働きやすい職場づくりを進める。 2 年間行事の見直しを図る等、教育課程の工夫を推進する。 3 校務分掌の見直しを図り、教職員の一人一人の校務分掌を適正にする。	1 ストレスチェックの健康リスクの値が前年度よりも減少する。 2 教職員がはたらつと職務を遂行している姿が見られる。	1 ストレスチェックの健康リスク値は、19%下がった。当初面談や達成状況面談では、自己評価シートの内容だけでなく、教職員に話を聞く時間も確保した。日常的にも適宜面談を行い、授業の指導力向上やメンタル面のサポートをした。 2 一人一主任を意識した組織作りを行った。学校評価アンケート(内部票)からは昨年より仕事の偏りが改善されたという意見が挙げられた。	A	○さらに働きやすい職場づくりのために教職員とのコミュニケーションを積極的にを行い、信頼関係を深め、相談しやすい関係を構築する。 ○校務分掌の見直し進め、校務分掌を適正にする。	